

ライオンが吠える：ロゴティー高校のマニファクチュアプログラム

レイディアス・インディアナ

Kara Kavensky

訳 Mariko Lassiter

民間と学校との間における生産的雇用のこととなると、インディアナ州南部のレイディアス地域内での取り組みが明るい話題になる傾向にあります。レイディアス地域内にある8つの郡の利害関係者(ステークホルダー)は、教育と地元産業の間のより強い橋渡しが将来の経済成長に重要な意味を持つことを実感しているからです。

その結果、高等学校は経済発展に積極的に貢献している生徒により注目するようになりました。

地域経済の開発機構でもあるマーティン群団体の専務取締役を担うティム・キンダー氏は、次のように述べています。「学校は経済発展の重要な役割を果たしており、私たちの学校は今、予想以上の成果を上げています。レディスクールプログラムは、経済の発展を促進し、将来の計画を立てるのを手助けしています」

最近STEMスクールに認定されたロゴティーハイスクール (LHS) は、生徒が在学中に何ができるのかを全国的な例で示しています。ロゴティーでは、生徒が中等教育(大学や職業訓練校などを指す)を受けた後、または高校を卒業して地元で就職したのちに、再び職探しのためにコミュニティに戻ってくるのを待っているではありません。LHSは生徒が高校生のうちからすでに地域経済の世界へと引き込んでいます。

ロゴティーが所在するマーティン群は、NSAクレーンの影響もあり、STEMの仕事集中度で全国ランキング4位にランクインされています。クレーンは世界で3番目に大きな海軍施設で、マーティン郡北部の3分の1を占めています。

キンダー氏は施設について、98平方マイル(253.819平方キロメートル)の大きさで、施設内には14の連邦政府部門があると言います。

リリー基金による地域機会イニシアチブ (ROI) レディスクールプログラムへの助成金のおかげで、ロゴティースクールコーポレーションは、教育と地域産業の橋渡しをするためのデザイン思考プロセスを開始することができました。

「ロゴティーはインディアナ州の美しい地域に位置しています」と、インディアナ州高地にわたる11の郡を管理しているROIの最高経営責任者であるティナ・ピターソン氏は述べています。「この地域の素晴らしい資産が多くの雇用機会を生み出しているのは明らかですが、それらが中等教育(大学や職業訓練校などを指す)後の結果につながっていることを示すデータはありません。そこでわたしたちは考えたのです。“可能性を満たすためにこの地域をどう手助けしたらよいのか”と」

レディスクールの計画プロセスの一環として、コミュニティの利害関係者(ステークホルダー)が集まり、各自の分野での課題を特定し、次のステップに備えるための体系的なアプローチを作成しました。そのうちのひとつは、ロゴティーの学校とコミュニティの両方と同じ規模である、ウィスコンシン州ストラムにあるカーディナルマニファクチュアを訪問することでした。その後、LHSのために提案されたのアイデアの中で、学生主催のビジネスであるライオンマニファクチュアを作ることが採用されたのです。

「教育に関して何か新しいことを始めるというのは手ごわく、気の遠くなる作業であるため、常に恐怖が伴います。さらに、わたしたちが計画を進めていくうえで明らかになったことは、たとえどんなに準備しても“万全の態勢”というのはありません、ということ」とロゴティー市内の学校教育長であるチップ・メハフェイ氏は言います。「ある時点で、あなたはただ飛び込んで始めるしかありません！」

ロゴティー高校によるクリス・ウッダード氏の相乗的な採用も、学生主催ビジネスのコンセプトを実現する手助けとなりました。2017年の夏、ウッダード氏は“プロジェクトが道を拓く (Project Lead the Way) ”カリキュラムの一環としてエンジニアとテクノロジーを教えるために雇われました。また彼の20年間の製造管理経験も、このプロジェクトに活かされることとなりました。

「大学卒業後は産業界で働きたいと願っており、2017年にそれを教育の現場へと移行することができました」と、カリフォルニア州立大学チコ校在学中に産業技術の学位を取得しながら、自身も生徒主催ビジネスで働いていたクリス・ウッダード氏は話してくれました。

ライオンマニュファクチュアの中心的なパートナーは、ラフミラーマシンツール&デザイン（Loughmiller Machine Tool&Design）です。ジェイソン氏とパム・ラフミラー氏はどちらもロゴティー高校（LHS）を卒業し、学校のそばにオフィスを構えました。ラフミラー社は機器だけではなく、顧客までもLHSのライオンプログラムに寄付してくれたのです。

学校はひとつの教室を“1960年代のショップ”に変えました。LHSにはすでに2006年に寄付されたHAASミニメールの機能を持つ、コンピューター化された機械（CNC）が備わっていましたが、コンピューター関係のインストラクターが去った2010年以来稼働していませんでした。つまり、2010年から2017年の間、CNC機械は休眠状態のままだったのです。ラフミラー社は2018年の夏の間、ミッチマティアス（Mitch Mathias）のLマシーンと協力しHAASミニメールの機能を復活させました。このHASSミニメール機能は、アメリカ海軍にレーダーシステムの一部として売られた、特別な部分となるLM2800を作るためにプログラムされました。さらにこのレーダーシステムはNSAクレーンで行われたため、レイディアス地域にとっては非常に意味があるということを示しています。

「転換の間に、すでに使用できなくなった多くの古い機器は廃棄され、そのエリアは新しいモデルチェンジを行いました」とメハフェイ氏は言います。また「生徒たちはそのプロセスの一員であることに興奮していました」と、その時の様子を振り返りました。

学校のライオンマニュファクチュアエリアー古いショップ風の教室ーは、現在では最新式の機械を備え、製造業ビジネス専門家の施設のようにも見えます。ライオンマニュファクチュアには、事業の成長に合わせ8つの溶接ステーションがあります。今後、2台目のCNC機械とレーザー彫刻機がもうすぐ追加される予定です。

2018年秋には、3人の生徒が機械の作製を行うために採用されました。春学期（2019年）までに、ライオンマニュファクチュアにはさらに2人の制作チームメンバーと3人のオフィススタッフが加わりました。これらのメンバーはすべてLHSの生徒です。

「ラフミラーツール&デザイン社は、ロゴティー高校にとって大変すばらしい企業パートナーです」とウッダード氏は言います。続けて、「私たちは彼らを敬愛しています。彼らはコミュニティ第一で、地域と深く関わっていて、そして私たちの重要なパートナーです」と話してくれました。

「私はウィスコンシンでカーディナルマニュファクチュアを見て納得しました」とパム・ラフミラー氏は言います。「カーディナルとロゴティーには多くの類似点があり、私たちは同じものをLHSでも作ることができると確信しました。取引に重きを置きながら、ライオンマニュファクチュアの成功を促進する手助けをすることは、私たちにとって当然のことでした」と、LHSのパートナーとなった理由を説明してくれました。

生徒たちは、他では決してできないレベルの経験を得ることができました。最初の年、ライオンマニュファクチュアは機械工だけでなく他の分野でも学生を雇いました。ビジネス部の生徒はライオンのオフィスを経営するために雇われました。彼らの責務には、売掛金勘定、請求書の作成、マーケティング、および広報が含まれていました。アート部の生徒は、ビジネスのためのロゴ作成や、アパレルや衣装を制作するために雇われました。

具体的な問題を解決する方法について答えが載っている本はないので、生徒は問題解決型学習を経験することになります。例えば停電が発生した場合にどう機械を修正するか、または工具のドリルビットをどのようにして直すかの答えを見つけ出さなければなりません。生徒たちは問題の原因を突き止め、解決策を編み出し、その解決策を実行に移さなければならないのです。

「彼らは事業を営んでいます」とウッダード氏は言います。「この学習モデルは現実世界での経験を提供しています。これは、部品を作る、ということよりも、生徒を経験値の高い人間にする、ということなのです」と説明してくれました。

最近の卒業生であるベッカ・ホラウェイ氏は、ライオンマニュファクチュアのマーケティング部門およびコミュニケーション部門のディレクターを務めました。最終学年在学中、彼女はオープンハウスを計画し、ツアーを企画し、ライオンマニュファクチュアにおけるすべてのイベントまとめました。

インディアナポリス大学で秋からマーケティングを専攻するホラウェイ氏は、次のように述べています。「ライオンマニュファクチュアでは、思った以上の作業をしました。同じ経験をさせてくれるであろう場所は、ロゴティーにはここ以外ないでしょう。ライオンは私が高校卒業後にやりたいことを見つけてくれました。このプログラムは間違いなく学校に必要なものです！」

レディスクールイニシアチブの信条には、コラボレーション、学生の没入感、地域社会との共有ビジョン、そして地域繁栄の目標が含まれます。これらの成功事例は経済発展と一致しています。

「ここには信じられないくらい素晴らしい学校、熱心な教育者たち、そして可能性に溢れた素晴らしい若者たちがいますが、農村コミュニティは見過ごされがちなので、これらの多くの可能性を認識することができていませんでした」とピターソン氏は言います。続けて「ロゴティーのコミュニティは、信じられないほどの成功の余地があるモデルを作成しました。」

若者たちはソフトスキル（対人的な交渉・指導・意思疎通などをうまく行える能力）を身に付け、生活の中で役立つチームの一員として働くでしょう。そして彼らがこの小さなコミュニティで創り出したものは、国中で複製可能なものなのです」とまとめてくれました。